

該当学年	授 業 科 目 名	担当教員	
1部1年 2部1年	教育原理	渡部 恭子	
サブタイトル	豊かな教育観の習得	単 位 数	2
授業形態	講義		
開講時期	後期	出席要件	4 / 5 以上
到 達 目 標			
本科目は「教育とは何か」を根本的に考え、教育する者を志して学んでいく第一歩を踏み出す科目である。 1. 学習者としてだけでなく、教育をする者として考え、新たな知識や視点を習得し、より具体的に豊かな教育像を描く。 2. 様々な教育理論や教育実践に触れる中で、自分の教育観がどのような特徴をもつのかを考える。 3. 互いの教育観を理解しようと努め、認め合う姿勢を養う。			
ディプロマ・ポリシー（専門士授与の方針）との関連			
本科目は、特に「幼児教育に対する情熱及び責任感を身につける」ことを目指す科目である。 まずは自分が経験してきた教育を振り返り、教育が各々の生涯に少なからぬ影響を与えていることを認識する。その上で、教育の重要性を理解し、幼児教育に携わる者に必要となる教育観について自ら考え、教育を絶えず改善していく情熱と責任感を習得することを目指す。			
授 業 の 方 法			
導 入：振り返りに書かれた意見をまとめ、質問に回答しながら、前回の授業内容を振り返る。 展 開：適宜互いの考えや価値観を共有する。必要に応じて、自分の考えを言葉で表現し、互いに読み合うことで共有する。講義や意見共有を通じて、教育に携わる上で必要となる幅広い視野や、柔軟な思考力、自己分析力を養う。 まとめ：毎回振り返りを記入することで、授業内容を自分の言葉でまとめる。感じたことや気づきを文章で表現することにより、自分の考えを客観視し、理解を深める。			
テキスト・教材・参考図書			
テキスト：特に指定しない。 参考図書：『教育の原理〔第四版〕』 沼野一男他 学文社 2010年 『子どもの教育の原理―保育の明日をひらくために』 古橋和夫編著 萌文書林 2011年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』 チャイルド本社 2017年			
評 価 の 要 点		総合評価割合	
期末に提出するレポート、小テスト、授業毎に記入するコメント（振り返りを含む）の内容を総合的に評価する。		レポート	50%
		小テスト	20%
		授業への貢献度	30%
履修上の注意事項や学習上の助言など			
授業の方針や評価方法については、初回の授業でより詳しく説明する。 第2回の授業において、レポート課題の根幹に関わる講義を行う。 ノートの指定・提出はしない。 wtnbkyo5@wa.seitoku.ac.jp			

授 業 回 数 別 教 育 内 容		身につく資質・能力
1 回	ガイダンス：教育原理を学ぶ意義とは (授業の方針を確認し、これまでの自分の教育観を言葉で表現する)	身近だが漠然としている物事を考える姿勢
2 回	教育の矛盾 (教育には常に矛盾が存在し、矛盾と共存していくことを理解する)	教育する者が常に抱える問題と向き合う姿勢
3 回	教育の視点 (教育の目的・内容・方法に着目し、「ねらい」の役割を意識する)	現場での実践を教育的視点で見る力
4 回	学力観の発展と教育改革 (「生きる力」や非認知能力について学び、自ら考える)	現代の教育を客観視する姿勢と視点
5 回	西洋教育史(1) 時代によって変化した教育像と子ども観 (子どもが「小さな大人」として捉えられた時代からの変化を学ぶ)	教育像と子ども観の密接な関わりを捉える力
6 回	西洋教育史(2) 教育家の思想と実践 前編 (ペスタロッチやフレーベルの教育思想とその実践を学ぶ)	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
7 回	西洋教育史(3) 教育家の思想と実践 後編 (デューイやモンテッソーリの教育思想とその実践を学ぶ)	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
8 回	日本教育史(1) 近世の教育機関から近代学校教育へ (日本に教育制度が出来るまでの教育の移り変わりを学ぶ)	近代学校教育が定着していく過程を捉える力
9 回	日本教育史(2) 教育家の思想と実践 (倉橋惣三など日本の幼児教育を大きく動かした思想を学ぶ)	代表的な教育家の思想や実践から学ぶ力
10 回	子どもの権利 (「子どもの権利条約」の全条目に触れ、権利を守る重要性を学ぶ)	子どもの権利を意識し守ろうとする力
11 回	世界の子どもたち (各国で行われている教育の様子や、多文化理解の必要性に触れる)	世界各国の教育情勢に関心を抱く姿勢
12 回	教育制度の基礎 (憲法・教育基本法・学校教育法に関する基礎知識を習得する)	現代教育の仕組みに関する基本的理解
13 回	生涯教育 (生涯学習を身近に捉え、幼児教育の重要性を再確認する)	生涯教育における幼児教育の位置づけの理解
14 回	教育の限界と危険性 (教育にも限界が存在し、教育万能論を回避する必要性を理解する)	教育の限界と危険性について想定する力
15 回	教育の可能性 (全 15 回の授業を振り返り、自分の教育観の変化を見つめる)	自分の教育観の特徴や変遷を振り返る力